令和 7 年 12 月記者会見

質疑応答の概要

①ユートミヤ（富谷市複合図書館）ロゴマークの決定

Q.

ユートミヤのシンボルマークとロゴタイプをご覧になった市長の感想を教えてください。

A.市長

シンボルマークにつきましては、ユートミヤそのものが元々は市民図書館から始まっているということをしっかりと理解していただいている作品だと感じました。さらに、最近では AI を使う方々が多くいる中で、手作りでとても可愛らしく、 新鮮味があり、皆さんに馴染んでもらえる作品だと思っております。ロゴタイプにつきましても、親しみやすさを第一に考え、角が丸くなっており、とても優しさを感じる作品だと思っております。両方とも素晴らしいご提案をいただき大変うれしく感じているので、今後、様々な形で皆さんにお伝えしていきたいと思います。

Q.

ユートミヤの愛称・正式名称が決まったときは 考案した方を市長室に招いて，賞品や記念品をお渡ししていましたが、今回もそういったことは予定されていますか。

A.市長

今回もお渡ししたいと考えております。現時点ではまだ詳細は確定しておらず、前回と同様に市長室にお招きするか、5 月 1 日のグランドオープンの席上でお渡しするか、現在最終調整をしている段階です。内容が決まりましたら、またお知らせいたします。

その他の案件

Q.

富谷市の高齢化率は県内の他自治体に比べて低い一方で、独居の高齢者の世帯数が増えている状況だと思います。こうした状況の背景や情勢などがありましたら教えてください。

A.市長

富谷市は昭和 40 年代後半や 50 年代から 仙台市のベッドタウンという位置づけで宅地開発が始まり、新しい方が移り住んでいただくことによって、これまで人口が増え続けてきました。現在も、東北の中では一番高齢化率が低い状況ではございますが、昭和 50 年代の初期の段階に移り住んで来られた方々が高齢化していることや当時子どもだった世代が市外に流出していることなどが、現在の高齢化率につながっていると考えています。

Q.

物価高対策として、市民 1 人当たり 5000 円の商品券配付が決定されたと思いますが、 改めてお米券やみやぎポイントではなく、商品券を選ばれた背景などを教えてください。

A.市長

今回、 国の方針が示された段階で、なるべく早く市民の皆さんにお届けできればという思いから、内部でも給付方法について数々の検討をいたしました。宮城県がすすめているみやぎポイントはデータ処理に有効で、経費も抑えられ、早く対応できるというメリットがあるものの、全ての市民の皆さんにくまなく行き届くようにすることを最優先に考え、商品券という形にさせていただきました。なるべく早くお手元に届けられるように、市民 1 人あたり 5,000 円を世帯ごとにゆうパックで配送するということで、 2 月にはお手元に届けられるように準備を進めております。さらに、それにあわせて、65 歳以上の高齢者の方に 1 人あたり 5,000 円、障害者手帳を所持している方に 1 人あたり 5,000 円、住民税非課税世帯に 1 世帯あたり 5,000 円を給付するということで、これらは別途現金で振込する方向で、現在準備を進めております。

Q.

今年、県内でも政治不信を招く事態が相次ぎ、 富谷市でも市議会議員の方がサウナにスマートフォンを持ち込んで市民からクレームがあったという事案がありましたが、そういった政治不信についてどう捉えていますか。また、今後信頼を回復するためにどのように取り組んでいきたいかお聞かせください。

A.市長

今回の事案につきまして、公職の立場である方がルールを守らないということはあってはならないことだと思っております。今回の辞職勧告につきましては、市議会で行ったことでありますので、 私から何か申し上げることは難しいところですが、そういった事案が発生したということはとても残念に感じております。市民の皆さんから信頼していただけるよう、改めて公職の立場であるということをしっかりと認識していただかなければならないと思います。

Q.

富谷市の今年一年を漢字一文字で表すとしたら何か教えてください。

A.市長

今年の漢字が「熊」になりましたが、 富谷市におきましても、7 月の第 1 回目の女子プロトーナメントがクマの出没から無観客になったことや 9 月に県内で最初にクマの人身被害が発生したことから、富谷市の今年一年を漢字一文字で表すとしたらやはり「熊」だと思います。

Q.

それを踏まえ、今後クマ対策にどのように取り組んでいきたいかを教えてください。

A.市長

今回、いち早く「富谷市クマ緊急対策パッケージ」を発表し、できることを一つ一つ最大限に行ってきました。予定したものはすべて 2 月上旬に完了する予定でございますが、市民の安心と安全を守っていくことが我々の一番の責務だと思っておりますので、 引き続き、クマ対策には緊張感を持って取り組んでいきたいと思っております。